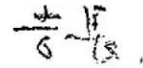


平成 23 年 12 月 22 日 旧広島市民球場跡地委員会



広島市が、新しい「スポーツ王国広島」を目指して、「広島市スポーツ振興計画」が3月末にスタートして9カ月が経とうとしています。

今こそ、広島は、私たちは、スポーツで元気になり、また、スポーツで元気を再発見するときに考えています。

前回の委員会での私の発言から、半歩進んで、つぎのような事をリクエストしたいと思いますが、まず、

「スポーツとは」についてお話します。学生時代に「一般的には、人間が遊戯の技で優劣を争うことに発展したものがスポーツであると言われている。つまり、遊戯が競技に発展したものである。(遊びたわむれることがスポーツの原点であるということ。)」習いました。

球場跡地は、市街地の中心部に位置し、戦災復興の証しとして存在する中央公園の一角で、永年、「子どもたちの夢を育ててきた場所」です。男子は、ソフトボール、野球、女子は、フットベースボール。市民球場である大会に出るのが一つの目標でした。一生懸命練習しました。

私は、小学生の時の夏休みに、市民球場であった「防犯少年ソフトボール大会」に出ました。1回戦で敗退しましたが、球場内に複数のコートが作られていました。私がプレーしたのは、外野のライトがホームベースでした。カープの選手が試合するところでプレーできた喜びを鮮明に覚えています。嬉しかったです。

私は、球場跡が、スポーツ活動のメッカとして、シンボリックで、街の賑わい、紙屋町界隈の活気溢れる情景が体感できること。さらに、スポーツ活動の基礎となる遊戯で活用できる場・運動の要素を含めたことの実践できる場、競技で活用できる場として整備してほしい。そんな欲張った環境を「みんなのスポーツチャレンジフィールド」と命名したいと思います。

もっとも具体的には、

近未来を見据え、中央公園全体の活用策を考えながら、スポーツ文化発信の源、新しいスポーツ王国広島への道標として、主に小・中・高校生を対象とする青少年のための芝生仕様の「多目的な競技の場」・「球技場」(例えば、少年少女野球場・少年少女サッカー場等)等によみがえり、世代間交流の機会が持てる場として、復活させて欲しいと思います。